まち

No.22 2024年 春号

発　行　日：令和6年3月22日
発　　行：日本大学理工学部まちづくり工学科教室
☎03-3259-0531（学科事務室）
発行責任者：後藤 浩（教室主任）
編 集 担 当：八藤後 猛、牟田聡子
制　　作：株式会社 ムーンドッグ

contents

巻頭言 …… 1
特集　まち科で出会ったひと・もの・こと …… 2
まちづくり工学科「キャリアサポート」の10年 …… 8
令和5年度　まちづくり工学科研究業績 …… 10
令和5年度後期　“まち”行事・イベントカレンダー …… 13
令和5年度　まちづくり工学科各賞受賞者 …… 15
教職員・学生の活躍 …… 16

巻頭言

「百尺竿頭一歩を進む」の気概で次の十年へ

教授　後藤　浩

まちづくり工学科（専攻）はどんな学科（専攻）であるのか、在学生の皆さんに問いますが、説明できますか？　できなければ、改めて皆さんしみじみ考えてみましょう。当学科は、理工学部にある同僚建設系の学科とは異なる特徴を持っています。改めておさらいしましょう。

現在、わが国は、先進国の仲間であり、その先進国では成熟した社会が形成されています。その国土にある「まち」も当然のことながら、それぞれの地域に合った形で完成形を迎えています。空間として完成の域に達した「まち」を安心・安全に、快適さを持続的に有しながら、さらに次世代へ発展をさせ存続させるためには、既存の空間創造技術である土木工学、建築学の力だけで対応することは、正直難しいと考えられます。なぜなら、さまざまなニーズを持った人たちが「まち」にはいますし、ゼロの原野から「まち」を新たに造り直すことなどは、ほぼないといえます。そこで、土木工学・建築学のほかに、まちの空間形成の学問分野の学際領域にある景観工学、観光学、健康・福祉工学、環境・防災工学を援用して、「まち」の今後を検討することが必要になってきます。そういった要請が社会から叫ばれ、まちづくり系の高等教育機関の設立の機運が高まり、2013年に日本大学理工学部でまちづくり工学科が設立され、2017年に日本大学大学院理工学研究科にまちづくり工学専攻が設置されました。2013年は、どのような年だったかを振り返れば、ちょうどアベノミクスが始まった年となります。そう考えると、古く感じますが、そう感じるのもその通りで、2022年でまちづくり工学科ができて10年経ったことになるのです。つまり、今の2年生が10期生です。他学科の卒業生などからは、今でも「新しい学科」と言われておりますが、私は、もはや新しい学科ではなくなったと思っております。1期生も30歳を超え、就職先での活躍も耳にするようになりました。また、大学に戻ってきて在学生に就職セミナーで「わが社にはこのようないいところが……」などと語る姿を見ると、当学科のカリキュラムに基づいた学生さんたちの大学での学びは間違いではなかったものと、確信する次第です。在学生の皆さんも、いろいろ将来について考える場面が多かろうと思います。先輩の背中を見れば、歩む道がしっかりあることが分かると思います。

そろそろ、最後にします。私は「向き不向きより前向き」という言葉が好きです。大学に入って、「これ、私には向いていないな……」といって、難しいことや困難を伴う行動をあきらめる学生さんがいます。やる前にあきらめる、それはもったいない。前向きに物事をとらえて前進してください。成長できます。これを期待いたします。当然、まちづくり工学科・専攻も本稿題名の通り前向きに進む予定です。ともに歩みましょう！

まちづくり工学科

学科・専攻ロゴ（このロゴは「まち」という多様な生活空間を動きのある曲線でダイナミックに表現しています。2つのラインは「人」という文字を表しています。そういう想いが込められています）

1 期生

村山　旭（2017年３月卒業／岡田研究室）　独立行政法人都市再生機構 東日本都市再生本部

まち科で出会った一生の宝物

中学生の時に２度の大地震（中越・中越沖）を経験し、将来はまちづくりに携わる技術者になりたいと決心。シンプルかつ奥の深い学科名（まちづくり）に惹かれ、この学校で勉強したいと両親に直談判。地元新潟から上京し、すべてが新鮮な気持ちでまちづくり工学科１期生として入学しました。

大学生活を振り返ってみますと、毎日が新しい体験でいっぱいでした。上京して初めてできた友人と一緒に勉強に励み、実習系授業では多彩な研究テーマを持つ先生方とディスカッション、日夜模型製作に徹して翌日寝不足なんてことも。３年生から所属する研究室活動では、自分の研究テーマである首都圏近郊都市におけるまちづくりに没頭。千葉県八千代市で地元住民とのまち歩きやワークショップを企画・実践したり、まち科の“トップランナー（１期生）”として常に試行錯誤・チャレンジし続けた、思い出の詰まったキャンパスライフだったと思います。

私は今、UR 都市機構で大都市の基盤整備（大手町、品川、今は渋谷）を担当しています。実はこの会社、私の地元である新潟県柏崎市の災害復興に貢献してくれた企業なのですが、今こうして自分がまちづくりに携わる仕事を目指すきっかけとなった企業で働いているのは、恩師である岡田智秀教授と岡田研究室に出会えたからこそ、まさに運命でした。

先生との出会いを語ると長くなるのですが、私の研究に対するやる気と熱意を買ってくださり（？）、快く研究室へ迎え入れてくださったのが岡田先生でした。入室後は毎日のように研究室に足を運び、先生の厳しくも丁寧な指導の下、「書ける、話せる、考えられる」研究者として、社会人として大切なことを学ばせていただきました。先輩後輩、同期にも恵まれ、岐阜県恵那市に訪れた夏休み合宿では、田園風景に囲まれながら、後輩と案山子作りに打ち込み、まちのコンテストにも参加（惜しくも入賞ならず）、囲炉裏を囲んで夜通し語り合ったのは今でも忘れません。

まちづくり工学科４年間の大学生活を共にした友人、恩師、先生方との出会いは私の一生の宝物です。卒業後は校友会まちづくり部会長の任を仰せつかり、お世話になったまちづくり工学科へ少しでも恩返しできればと、在学生の支援・卒業生交流活動を続けておりますが、すべての出会いを大切に、まち科卒業生の絆をこれからも育んでいきます。

最後になりましたが、まちづくり工学科設立10周年という大きな節目を迎えられましたことをお喜び申し上げるとともに、ますますのご発展をお祈りいたしております。

JR 高輪ゲートウェイ駅開業に向けて、現場の最終確認中

研究室名物の案山子作り（岐阜県恵那市）

まち科で出会ったひと・もの・こと

2
期生

小山雄大（2018年３月卒業／仲村研究室）　大日本ダイヤコンサルタント株式会社

まちづくり工学科4年間での学びと感謝

私はまちづくり工学科２期生として2014年～2018年に在学しました。卒業して社会人６年目になりあっという間と感じる一方、いまだに大学１年生の時に通っていた船橋キャンパスの学食（ダビンチやパスカル）の味が忘れられず、また行きたいなと思っています。

私は現在、大日本ダイヤコンサルタント株式会社で主に法面や構造物の設計、点検等の防災関係の仕事をしています。今回はやりがいのある建設コンサルタントの仕事を教えていただいた仲村成貴教授と、さまざまな思い出を創ることができた研究室のメンバーへの感謝を述べたいと思います。

私が防災関係の仕事に就きたいと思ったきっかけは、中学３年生の時に経験した東日本大震災でした。私は東京にいたため被災はしませんでしたが、ニュース等の映像を見て衝撃を受けました。東日本大震災以降もさまざまな自然災害が発生する中、少しでも役に立ちたいと思い、防災関係の仕事に就こうと決心しました。しかし、防災関係の仕事は分野が広いため、大学入学後もどのような仕事が自分のやりたいことに合っているのかわからず、焦りを感じていました。そのような中で、私が所属していた研究室の仲村教授に建設コンサルタントの仕事を教えていただきました。

実際にこの会社に就職し、仙台市に赴任となり、震災復興関係の仕事や「令和元年東日本台風」ならびに「福島県沖地震」（2021年、2022年）等の災害対応に携わり、非常にやりがいを感じています。また仲村教授は、当時文章力が皆無だった私の履歴書を添削してくださり、また東日本大震災の被災地に私を連れていってくださり、貴重な経験をさせてくださいました。あらためて感謝申し上げます。ありがとうございました。

社会人になって感じるのは、研究室の仲間は大切だということです。同じ研究分野のため、社会人になっても近い仕事（１人は同じ会社で同じ仙台市赴任になりました）をしており、気軽に相談や情報共有ができる大切な仲間です。沖縄旅行や鍋パーティー、みんなで追われた卒業論文など、楽しい思い出ばかり記憶に残っており、あらためて、まちづくり工学科で４年間を過ごすことができて良かったと思います。

2019年に開催された研究室のOB・OG会には災害対応で参加できず、また、コロナ禍等により仲村教授や研究室の皆さんとお会いできていませんが、コロナも収束したので、ぜひ伺いたいと思っています。

最後に、現在まちづくり工学科の皆さんには、就職活動は悔いの残らないよう全力で頑張ってほしいと思います。私の仕事に興味や質問があるならば、いつでも連絡いただきたいと思いますし、仲村教授にも相談してみてください。仙台から応援しています。

普段皆さんが通る道路に面している法面を点検しています

研究室の卒業旅行で沖縄に行きました

3
期生

菊原綾乃（2019年３月卒業・2021年３月博士前期課程修了／歴史まちづくり研究室）
Arrow Planning Limited / Graduate Planner

卒業の先に広がる挑戦と感謝の６年間

私が大学で過ごした数々の瞬間には、感謝が溢れていました。その中で特に感謝の念を捧げたいのは、両親と友人たちです。彼らの支えがあったからこそ、私は卒業論文や修士論文に真摯に取り組むことができ、今の環境に身を置くことができたと考えております。

まず、両親に対する感謝の気持ちは言葉に尽くせません。卒業までの期間、生活、資金的援助といったあらゆる面で、献身的に私を支えてくれました。学業に専念するための安心感を与えてくれ、卒業後の進路に対する不安を取り除いてくれる彼らの存在がなければ、私はここまでの道のりを歩んでいけなかったと思います。その篤いサポートに、感謝の言葉だけでは足りません。

次に感謝しているのは、大学生活を共にした友人たちです。特に同期の大学院へ進学した仲間たちは、専門分野の領域を超えて連帯し、互いの修士論文や課題に真摯に向き合っていました。その姿勢からは、お互いに高め合い、共に成長するという強い意志が感じられました。研究室の枠を越えて行う相互のサポートは、私にとって大きな励ましでした。課題やプレゼンテーションの練習で助け合い、共に学び合ったことが、卒業の日を迎える力となりました。

特に2020年初頭、新型コロナウイルスの感染拡大により大学への入構が制限される中、友人たちとの結束はさらに重要なものとなりました。不透明な未来の中で、両親と友人からの温かいサポートは、私の心に大きな支えとなりました。感染対策に苦しむ中でも、友人たちとの連携や励まし合いが、学業に専念できる環境を提供してくれました。そのおかげで、無事に卒業を果たすことができたと考えております。

Team Coaching Day －プレゼンテーション

Team Coaching Day – Team Arrow

インターンシップ体験談の講演会（３年次）

4
期生

山岸大雅（2020年３月卒業／田中研究室）

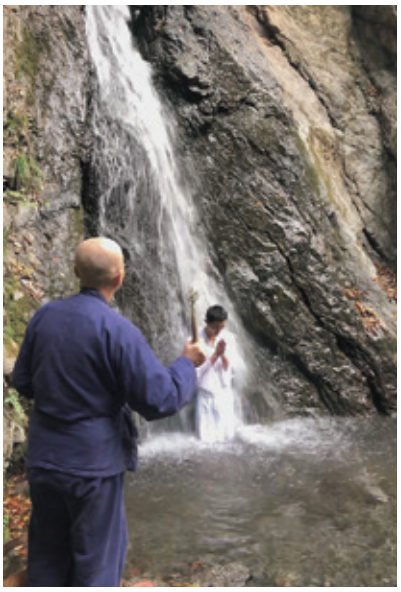
埼玉県 県土整備部河川砂防課

縁

まちづくり工学科で過ごした４年間を振り返ると、たくさんの思い出がよみがえってきます。この度は、在学中の思い出を振り返る貴重な機会をいただき、ありがとうございます。僭越ではございますが、在学中に大変お世話になった感謝の意味も込めまして、現在の私を形成するのに大きく影響した、田中賢先生との出来事について、少し触れさせていただきます。

大学３年生への進級を控え、どのゼミに所属しようか悩んでいた当時、私は「おもしろそう」という安直な理由から、田中研究室に決めました。実際に、研究室に所属していた２年間で、私が興味を惹かれるような提案をいくつもしていただいたように思います。

研究テーマを決める時期が迫り、なかなか決めることができず悩んでいる私に対し、田中先生から「僕は、山岸君に修行させたいと思っている。だから一度、滝行をしてみたらどうか」と助言をいただいたことを今でも強烈に覚えています。そしてその翌月には、何を思ったか私は同じゼミの友人と一緒に滝に打たれていました。振り返ると、私の好奇心のツボを田中先生に把握されていたように感じます。しかし修行は滝行だけにとどまらず、「秩父札所34ヶ所」巡り（埼玉県秩父盆地にあるお寺34カ所の巡礼）も実施することになり、最終的には「秩父札所34ヶ所」のバリアフリー状況を調査した卒業研究につながりました。このことを埼玉県庁の面接試験で話したところ、最初の配属先が秩父地域を所管する地域機関になり、秩父地域での道路事業に携わった後、初めての人事異動を経た現在の所属でも秩父地域を流れる荒川上流域の河川及び砂防事業に携わっております。


滝行の様子（2018年12月）

発注通りに工事が進んでいるか確認している様子（2022年６月）

修行から始まったこの約５年間、秩父に足を運び、住み、関わり続けていることを考えると、縁を感じずにはいられません。「滝行は、半分冗談だった」と後から田中先生がおっしゃっていたように記憶していますが、興味を惹かれたことに対して行動を惜しまないことで、その行動が自分と他人をつなげ、何かの縁になっていくのだと学ばせていただいたように思います。田中先生をはじめ、これまでお世話になった方々のことを思い浮かべると、どのゼミにするか悩んでいた当時「おもしろそう」という自分の感覚に従った決断は、間違っていなかったと言えます。

これからも「おもしろそう」という感覚に従い積極的に行動を起こすことで、私自身の成長につなげていきたいと思います。末筆ではございますが、当時の私に多大なるお力添えをいただいた田中先生への感謝を述べるとともに、今後のまちづくり工学科のますますの発展をお祈り申し上げます。

5
期生

森安祥大（2021年３月卒業・2023年３月博士前期課程修了／沿岸域防災研究室）
中日本高速道路株式会社（ＮＥＸＣＯ中日本）名古屋支社 環境・技術管理部技術管理課

後藤先生との出会いと私の成長

社会人１年目の森安です。私は大学４年間、大学院２年間と計６年間、まちづくり工学科及びまちづくり工学専攻でお世話になりました。その中でも感謝しているのは、やはり大学３年生の頃から指導教員として研究室でお世話になった、後藤先生との出会いです。私が後藤先生の研究室を選んだ理由は、水害に関する研究をしたいと考えていたためでした。

研究室に入った当初は、大学院に進もうとは思ってもいませんでした。しかし卒業研究や就職活動が進むにつれて、このまま社会へ出るには力不足なのではないかと感じ、その中で後藤先生と相談して出した答えが大学院への進学でした。後藤先生に初めて大学院進学の相談をした際に、快く背中を押していただいたことは、今でもありがたく思っています。

私は学部時代、まち科５期生の中で決して成績が良い方ではなく、研究に命を燃やすタイプではありませんでしたが、大学院に入ってからは真面目にコツコツ頑張ることができたかなと思っています。

大学院に進学してからは、三つの点で成長を感じました。一つ目は、説明力がついたことです。大学院では、研究の進捗管理として外部の学会や学内の発表会に参加していました。そうした発表は、どのように説明すれば相手に伝わりやすいかということを考える機会となりました。多くの聴講者相手に、自分の研究成果をうまく発表できた時は、爽快でした。二つ目は、打たれ強くなったことです。研究発表の場では、時には厳しい意見や想定外の質問をいただくことがあり、厳しい場面もよくありました。特に学内の発表会では学科内の先生方からたくさんのご意見やご質問を頂戴し、気づけば持ち時間を大幅に超えて45分ほど壇上に立ち続けていたということもありましたが、今ではいい思い出になっています。三つ目は、主体性が身についたことです。大学院生活は、授業が少ない代わりに、研究に多くの時間を費やします。研究テーマをどうするか、どのように研究を進めていくか、発表をするか等、指導教員の後藤先生と議論しながら進めていく過程で、自ら判断し、責任を持って行動することができるようになったと実感しています。

このように、後藤先生と出会い、大学院に進み力をつけたことで、目標としていた土木構造物の建設や維持管理に関わる仕事に携わることができています。

最後に、後藤先生へ。先生のご指導で私は成長できたと感じています。大学院の２年間は、私の人生にとって大きな転換点になりました。学部から数えて４年間、沿岸域防災研究室で本当にお世話になりました。

工事現場（道路の床版取替）にて。現場では発注者として、工事の進捗や品質などをチェックします。毎日が学びの連続です！

後藤先生と学位記伝達式の日に撮った、思い出の１枚です

6
期生

柿原英人（2022年３月卒業／仲村研究室）　株式会社大林組

「まちめん」と仲村先生

私は2018年４月にまちづくり工学科に入学した、６期生です。高校３年生の時、建築学科を第一志望にするも落ちてしまい、第二志望だったまち科に渋々入学しましたが、良き友人・先生に出会えたおかげで、結果的にまち科に入学して良かったと思っております。そんな出会いについて、書きます。

まずは「まちめん」です。まちめんとは、同学年の青山君、上原君、大塚君、大久保君、小森君とのグループを表し、名前は「まち科で出会ったメンツ、略してまちめん」と、私が勝手に付けました。大学の講義やプライベートはほとんどまちめんで過ごし、沖縄や北海道、グアムへ旅行に行ったり、スノボ好きが多いので冬は新潟・長野へ行ったりしました。そんなまちめんで思い出に残っているのが、構造力学の講義です。構造力学では毎回レポート課題が出されるのですが、私はまちめんの中では一番構造力学が得意だったので、課題を真っ先にこなして完成したレポートの写真をまちめんのLINEに投稿し、他の５人はそれを見て解いていました。そのおかげで他の５人からの質問に答えたり、逆に自分の間違いを見つけてもらえたりして、理解をより深められたので、感謝しております。難しい問題が出されてなかなか解けずに投稿が遅れ、私が投稿するまで課題に手を付けない青山君から「まだ？」と言われた時は、イライラしましたが。今もその投稿は残っており、社会人になってからも見返したりしております。

風車建設現場での写真。指を差している風車は私が担当したものです

まちめんでの沖縄旅行

次は仲村先生です。得意の構造力学の担当が仲村先生だったので、構造力学についてもっと勉強したいと志望し、仲村研究室に配属となりました。就職活動時、「コンサルタント」という名称の響きの良さに憧れて「建設コンサルに行きたい」と相談すると、「柿原にコンサルは似合わない、現場が似合う」ときっぱり言われ、ゼネコンの現場インターンシップに参加しました。しかし、そこで現場の面白さを知り、ゼネコン志望で就活をしました。就活では企業から、「学科名からは何を勉強しているのかわからない」と言われて苦労しましたが、仲村先生のフォローのおかげで今の会社に入社することができました

卒業研究の時には、進捗状況の報・連・相がうまくできず「その調子だと絶対、会社に入ってから上司に怒られるぞ」と宣告され、入社後数カ月で的中。報・連・相について上司から注意される度に、仲村先生の顔が思い浮かびます。人柄を見抜き、学生のためにこれだけ怒ってくれる先生はなかなかいないと思います。本当に感謝しております。

このような出会いは、まち科に入学したからできたのであり、本当に良かったと感じております。まだ10周年ですが、20周年、30周年と続くようお祈りいたします。

まちづくり工学科「キャリアサポート」の10年

就職指導委員　教授　仲村 成貴

1．まちづくり工学科のキャリア支援プログラム

まちづくり工学科では学科設立当初からさまざまなキャリア支援プログラムを授業内外で展開してきました（図１）。2019（平成31）年度入学の第７期生までを対象とした旧カリキュラムでは、１年次必修科目「まちづくりと職能Ⅰ」、２年次選択科目「まちづくりと職能Ⅱ」、３年次選択科目「まちづくり特殊講義Ⅰ」「インターンシップ」を設置していました。2020（令和２）年度入学の第８期生からは現行のカリキュラムに移行し、キャリア支援プログラムをさらに強化しています。旧カリキュラムからの引き継ぎ科目のうち、導入講座「まちづくりと職能」、宅地建物取引士試験の対策講座「宅地建物学」、技術士第一次試験の対策講座「まちづくり技術の実践」については名称変更して科目の位置づけを明確にするとともに内容強化を図っています。

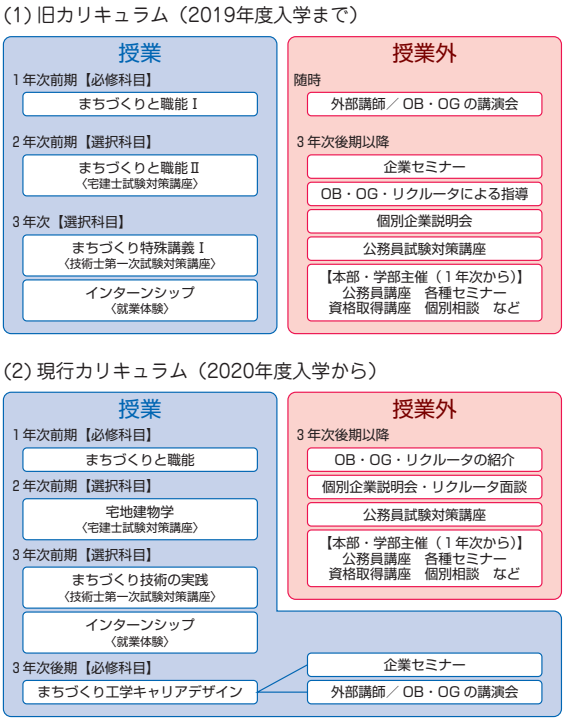


図１　まちづくり工学科のキャリア支援プログラム

夏季休暇中の就業体験とその準備講座である「インターンシップ」では、初期から多くの公的機関や民間企業によるご協力のもとで、１週間（実働５日間）以上にわたる貴重な就業体験の場を学生に提供いただいてきました。図２は、各年度の対象学生数（学部３年生と修士１年生）、夏季休暇中のインターンシップ参加学生数、インターンシップに参加した学生１名あたりの実習先数の推移です。初期から多くの学生が就業体験に取り組んできました。コロナ禍の2020～2021年度には募集が激減したため少数の参加にとどまりましたが、2022年度以降はコロナ前と同等以上に多くの学生が参加してきたことに加え、１名あたりの実習先が増加しています。今後もインターンシップへの期待が高まることが想定されます。なお、大学院でも2023年度からの新カリキュラム移行を機に演習科目「インターンシップ」を設置しています。

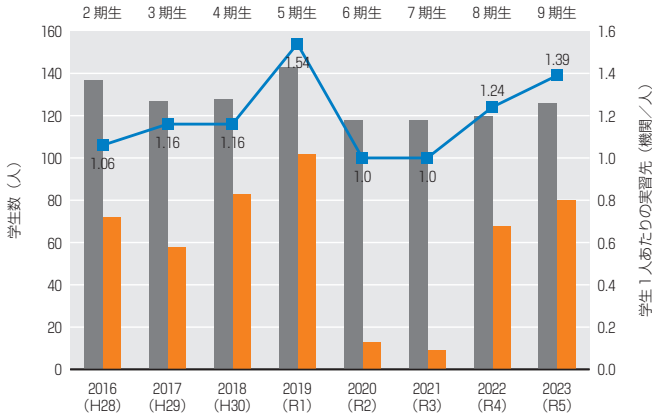


図２　IS 参加学生数・１人あたりの IS 実習先数

キャリア支援強化の象徴というと過言かもしれませんが、現行カリキュラムでは新規に３年次必修科目「まちづくり工学キャリアデザイン」が設置されました。卒業後のキャリア形成のための具体的な情報を提供し、学生に具体的な志望進路を定めて就業への理解を深めてもらうことを狙いとしています。これまでは授業時間外に実施していた就職活動ガイダンス、講演会、企業セミナーもこの授業の一環として実施しています。企業セミナーでは企業・団体の方々に業界や業種、職種などを少人数形式で学生に紹介いただく場として初期から開催してきました。図３は企業セミナーへご参加いただいた企業・団体数の推移です。多くの団体・企業の方々からご参加をいただき、学生へ有用な情報を発信していただきました。コロナ禍の2020～2021年度にはオンライン開催にご協力いただきました。

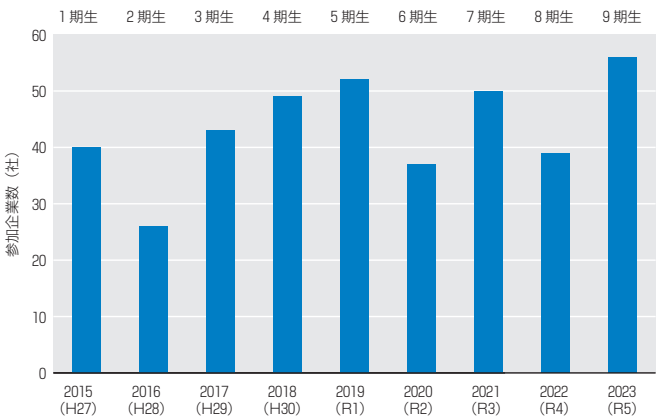


図３　企業セミナー参加団体・企業数

2．情報提供

学生への情報提供には、初期から現在に至るまで、まちづくり工学科掲示板（写真１）、まちづくり工学科事務室内外（写真２～３）、メーリングリストを活用しています。初期から掲示板ではセミナー・説明会・イベントなどの案内を掲示、事務室内では求人票・就職活動の対策本・卒業生の就活体験記／公務員試験合

写真１　まちづくり工学科掲示板

写真２　まちづくり工学科事務室

写真３　まちづくり工学科事務室内

図４　まちづくり工学科就職活動支援サイト

(1) 求人・セミナー等の情報提供　　(2) 就活体験記

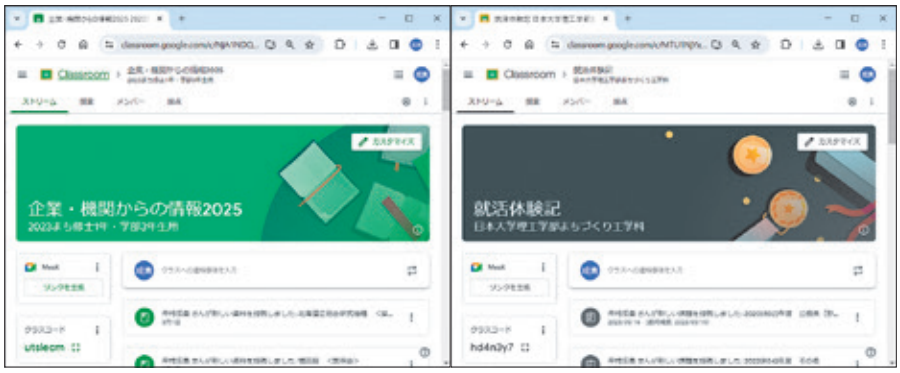
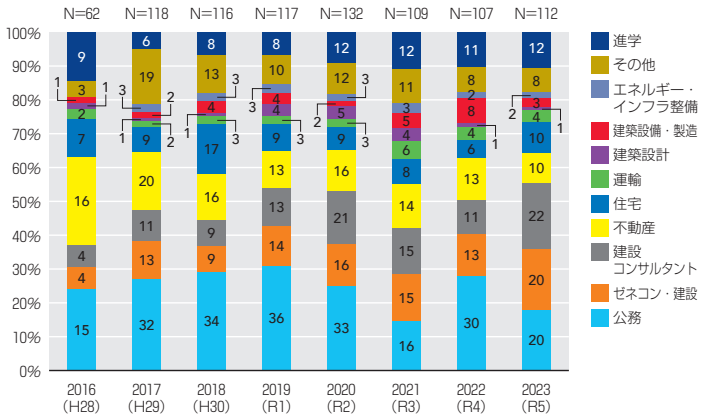


図５　Google Classroom

格体験記などの各種資料の配架、事務室外では各企業・団体の資料の配架、メーリングリストでは就活全般および公務員対策についての情報提供をそれぞれ実施してきました。コロナ禍では入構制限により従来の情報提供が物理的に不可能となったため、オンラインによる情報提供を開始しました。まちづくり工学専攻とまちづくり工学科の学生専用とした就活支援サイト（図４）を開設して就活全般の情報を広く提供し、Google Classroom では求人・セミナー・説明会等の情報や、卒業生の就活体験記／公務員試験合格体験記をオンライン上で閲覧できるように整備しました（図５）。現在は、掲示など従来の方法とオンラインとを併用して学生へ情報提供しています。

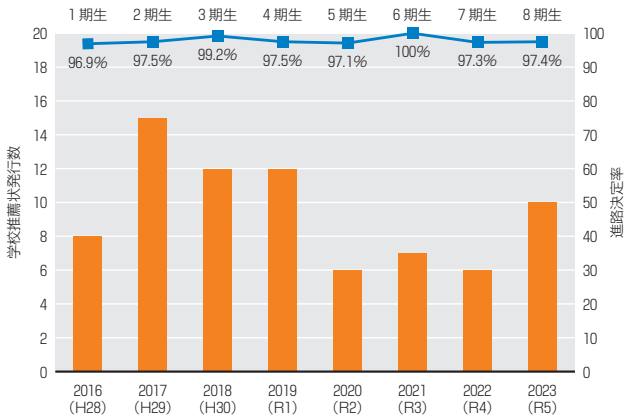
３．進路の変遷

過去８年間の進路先の業種別割合を図６に示します。まちづくり工学科卒業生の特徴として、公務員への就職者が多いことと、幅広い業種へ就職していることが挙げられます。年度によって多少の増減はありますが、全体に対して公務員が２～３割、ゼネコンが１～２割、建設コンサルタントが約２割、不動産が１～２割、住宅が約１割という傾向です。職種では、公務員は９割以上が土木職、ゼネコンは土木施工が約４割、建築施工が約６割です。また、近年では発注側の民間企業（鉄道、道路、電力）や、設備・製造業への就職者が増加傾向にあります。その他に、地域まちづくり活動団体や旅行業への就職者があることも学科の特徴といえます。図７は学校推薦状の発行数と進路決定率の推移です。この８年間、まちづくり工学専攻・学科の学生の進路決定率は堅調に推移してきました。今後も学内外からのご支援を頂戴しながら、キャリア支援教育の拡充を図り、学生の就学・就業意欲の更なる向上に努めてまいります。



※進路未決定者を除く
※2023（令和5）年度は2024年3月13日現在

図６　進路先の業種別割合



※2023（令和5）年度は2024年3月13日現在

図７　学校推薦状の発行数と進路決定率

令和５年度　まちづくり工学科研究業績

審査付き論文

秋元美咲・依田光正：街路と空き車庫からなる街路領域拡大の福祉活用の基礎的検討―大田区糀谷地域における車庫と街路の関係性－，福祉文化研究，Vol.31，pp.71-79，2023.3.31.

樋野公宏・雨宮護・田中賢：防犯性の高い低層賃貸集合住宅に対する居住者意識認定物件および一般物件居住者へのアンケート調査から，日本建築学会計画系論文集，88巻，806号，pp.1366-1370，2023.4.1.

落合正行・岡田智秀・浅井凜太郎・松田孝太郎：わが国の「みなとまち」活性化に向けたリノベーション倉庫の活用方策に関する研究―「みなとオアシス」登録港のエリア構成に着目して―，土木学会論文集Ｄ３（土木計画学），No.78，No.5，pp. Ⅰ _217-228，2023.5.12.

秋元美咲・依田光正：歩行補助つえを用いた段差昇り動作におけるつえ接地角度特性に関する基礎的分析，日本福祉工学会誌，Vol.25，No.1，pp.35-39，2023.5.30.

西山孝樹・藤田龍之・天野光一：『徳川実紀』にみる江戸幕府下の治山治水政策に関する基礎的研究―「山川掟」に類する記述を対象として―，土木学会論文集，Vol.79，No.6，22-00280，2023.6.20.

落合正行：都市部における遊休建物を活用した「地域の居場所」の整備方策に関する研究―東京都文京区内の発意者が異なる２事例を比較して―，日本建築学会地域施設計画研究シンポジウム発表論文集，2023.6.23.

阿部貴弘・山岸祐子・鈴木杏子・菊原綾乃：青梅市内の多摩川に関わる呼び名に関する基礎的研究，土木学会論文集，Vol.79，No.7，pp.1-15，2023.7.20.

Hiroshi Gotoh and Kazuo Ishino: Considerations on Assessment of Flooding Risk and Countermeasures Implemented for Medical Facilities in Low-lying Areas of Tokyo, Proceeding of International Symposium on Engineering and Applied Science, 2023.7.27.

藤山遼太・岡田智秀・田島洋輔：静岡県遠州灘地域における津波避難施設の指定・整備要件に関する研究，土木学会論文集Ｂ３（海洋開発），No.79，(18)，2023.10.4.

植田瑞昌・東祐二・八藤後猛：障害児の成長と発達を促すための排泄環境整備に向けた家族向けアセスメントツールの使用評価，日本建築学会技術報告集，29巻，73号，pp.1490-1495，2023.10.20.

牟田聡子・八藤後猛：妊婦の屋外空間における事故に関する基礎的研究，理工学研究所研究ジャーナル，no.152，pp.1-12，2023.10.31.

秋元美咲・依田光正：段差降段動作における動作制限の有無による歩行補助つえ接地角度の特性，日本福祉工学会誌，Vol.26，No.2，pp.82-85，2023.11.30.

小木曽裕：浅間山噴火の歴史と植林による軽井沢エリアの樹木の実態に関する研究，樹木医学研究，第28巻，１号，pp.28-29，2024.1.

秋元美咲・依田光正：つえ歩行に適した歩行者系舗装材の選定に関する基礎的検討―主観評価を用いて―，日本人間工学会誌，Vol.60，No.1，pp.13-21，2024.2.15.

後藤浩：建物の屋根に降った雨水の道路への直接排水の実態を考慮したまちづくりの留意点，日本建築学会技術報告集，第74号，2024.2.20.

長瀬祥敬・後藤浩・井上雅志：基礎自治体が管理する中小橋梁の耐震整備の優先順位の決定手法に関する一提案，土木学会インフラメンテナンス実践研究論文集，Vol.3，No.1，pp.21-30，2024.2.29.

佐々木舞緒・仲村成貴：避難施設周辺に立地する道路橋の通行可否が災害時の避難経路に及ぼす影響，土木学会インフラメンテナンス実践研究論文集，Vol.3，No.1，pp.282-288，2024.2.29.

石田愛奈・押田佳子：長野県軽井沢町と静岡県伊豆高原地域におけるペットツーリズムの発展プロセスに関する研究，環境共生，vol.40，2024.2.

田島洋輔・久米隼：埼玉県羽生市における利根川観光活用ワークショップの取り組み―地域貢献活動で育む学生の創造力に着目して―，埼玉純真短期大学論文集，Vol.16，2024.2.

口頭発表（審査なし）

戸塚夏萌・後藤浩：低地帯の都市部における工場の緑地を利用した浸水レベル軽減方法の提案（Ⅳ-50），第50回土木学会関東支部技術研究発表会，2023.3.8.

長瀬祥敬・後藤浩・井上雅志・内田渉：震災で落橋が予測される中小橋梁の耐震整備の優先順位の決定手法に関する一提案（Ⅳ-53），第50回土木学会関東支部技術研究発表会，2023.3.8.

後藤浩：予想浸水域に存在する家屋等のルーフドレーンからの道路への雨水の直接排水の実態（Ⅳ-58），第50回土木学会関東支部技術研究発表会，2023.3.8.

佐々木舞緒・仲村成貴：基礎自治体が管理する道路橋の地震被災リスク評価に関する検討―埼玉県西部の市町村が管理する道路橋の地震ハザードの把握―，第50回土木学会関東支部技術研究発表会，2023.3.8.

秋元美咲・依田光正：歩行補助つえへの IoT 機能付加に向けたセンサシステムの適用，第32回ライフサポート学会フロンティア講演会，G14-4，p.132，2023.3.14.

西山孝樹・佐藤友梨・天野光一：リゾート地行動の能動性に関する基礎的研究，土木学会第67回土木計画学研究発表会，2023.6.3-4.

西山孝樹・藤田龍之・天野光一：『徳川実紀』にみる江戸時代前中期の江戸府内を主たる対象とした社会基盤整備に関する法制度と行政政策―地方政府としての江戸幕府―，土木学会第43回土木史研究発表会，2023.6.24-25.

柳沼雄波・山崎詩歩・阿部貴弘：ブラフ積擁壁の歴史・文化的価値に関する一考察，土木史研究講演集，Vol.43，pp.297-304，2023.6.25.

後藤浩・勝又太一：国府津海岸を例とした釣り人による養浜事業の評価に関する一考察（１-３），第35回日本沿岸域学会研究討論会，2023.7.22.

秋元美咲・依田光正：つえ使用段差昇り動作における動作制限の有無とつえ使用の関係に関する基礎的検討，日本人間工学会第64回大会，O1B1-01，2023.9.7.

大塚晴希・田中賢：劇場・ホールのバリアフリーと芸術鑑賞の多様性についての研究，2023年度日本建築学会大会(近畿)，2023.9.12-15.

萩原菜々華・田中賢：避難訓練コンサートの比較研究，2023年度日本建築学会大会(近畿)，2023.9.12-15.

田中賢：江ノ島電鉄における勝手踏切の歴史とその対策，2023年度日本建築学会大会（近畿），2023.9.12-15.

鈴木彩加・田中賢：マラソンボランティアによる郷土愛向上に関する研究，2023年度日本建築学会大会（近畿），2023.9.12-15.

秋元美咲・依田光正：まちの理解のための建築物と歩道との段差状況調査方針の基礎的検討，2023年度日本建築学会大会(近畿)，2023.9.13.

加藤凛太朗・山﨑晋：都市再生特別地区の地域貢献における歩行者ネットワークの整備実態と駅との関係性に関する研究，2023年度日本建築学会大会（近畿），2023.9.13.

吉住孟・深沢颯太・牟田聡子・八藤後猛：公共空間におけるスケートボード滑走場所の特徴と空間構成要件，2023年度日本建築学会大会（近畿），都市計画，pp.1279-1280，2023.9.13.

安藤優・牟田聡子・八藤後猛：都市空間におけるグラフィティの存在とその印象 - 落書きとグラフィティの違いを決定づける印象の要因，2023年度日本建築学会大会（近畿），都市計画，pp.509-510，2023.9.13.

吉川智貴・甲平彩海・牟田聡子・八藤後猛：被災者の仮設住宅入居方法が入居後の支援のあり方に与える影響，2023年度日本建築学会大会(近畿)，建築計画，pp.1337-1338，2023.9.13.

岩田恵・牟田聡子・八藤後猛：中学校部活動の地域移行によるスポーツを通じたまちづくりの可能性，2023年度日本建築学会大会(近畿)，建築計画，pp.661-662，2023.9.13.

中尾太一・阿部貴弘：米国ワシントン州における日系人に関わる歴史的環境保全に関する研究，令和５年度土木学会全国大会講演概要集，IV-27，2023.9.14.

後藤浩・樗林雄史：浸水域にあるエントランスを掘り下げた集合住宅の空間分布と被害低減法の考察

（Ⅳ-28），令和５年度土木学会全国大会第78回年次学術講演会，2023.9.14.

戸塚夏萌・後藤浩：工場の緑地敷地を利用した洪水による浸水深を軽減するための方法の提案（Ⅱ-61），令和５年度土木学会全国大会第78回年次学術講演会，2023.9.14.

佐々木舞緒・仲村成貴：インフラ施設の維持管理データの防災への活用に関する基礎的検討―埼玉県の市町村が管理する道路橋を例として―，令和５年度土木学会全国大会第78回年次学術講演会，2023.9.14.

藤山遼太・岡田智秀・田島洋輔・松本怜士：日常利用と防災機能を両立させる津波避難施設「命山」の整備要件に関する研究―静岡県遠州灘地域に現存する「命山」の土地利用規制と造成時の課題に着目して―，令和５年度土木学会全国大会第78回年次学術講演会，2023.9.14-15.

石田愛奈・押田佳子：長野県軽井沢町におけるペットツーリズムの運用プロセスに関する研究，日本環境共生学会第26回学術大会，2023.9.17.

萩原菜々華・田中賢：避難訓練コンサートの比較研究，第26回日本福祉のまちづくり学会全国大会，2023.9.29-10.1.

大塚晴希・田中賢：劇場・ホールのバリアフリーと芸術鑑賞の多様性についての研究，第26回日本福祉のまちづくり学会全国大会，2023.9.29-10.1.

森下源己・山﨑晋：バリアフリー重点整備地区内にある駅型保育施設の立地状況に関する研究―東京23区のバリアフリー重点整備地区に着目して―，第26回日本福祉のまちづくり学会全国大会，2023.10.1

西山晃太・山﨑晋：百貨店撤退後の建物・跡地利活用に関する研究―中心市街地活性化基本計画認定後の事例を対象として―，日本都市計画学会中部支部研究発表会論文集，34号，pp.1-4，2023.10.

野中優希・山﨑晋：空き家特措法による代執行事例の立地状況及び跡地活用状況に関する研究―特措法施行から令和２年度に行われた351事例を対象にして―，日本都市計画学会中部支部研究発表会論文集，34号，pp.5-6，2023.10.

西山孝樹：西根堰上堰における江戸時代の技術を用いた用水路の縦断測量による歴史的価値の確認，2023 JUDI 都市環境デザイン会議全国大会 in 熊本，2023.11.3-4.

秋元美咲・依田光正：つえ歩行における動作制限の有無とつえの動作特性に関する基礎的検討，日本人間工学会東海支部2023年研究大会，1B1，2023.11.11.

稲垣理紗・仲村成貴・新井寿昭：杭体の損傷モニタリングに向けた基礎的検討―PRC 杭の曲げ載荷試験―，第20回地盤工学会関東支部発表会，2023.11.22.

栗本賢一・岡田智秀：東京ウォーターフロントにおける知識集約型ビジネスサービス産業の産業親和性と産業共集積に関する研究―地理的分布と産業間相互作用の総合的分析―，土木学会第68回土木計画学研究発表会（秋大会），2023.11.25.

常松美咲・岡田智秀・田島洋輔：わが国における海釣り施設の事業継続要件に関する研究―海釣り施設の整備状況と運用形態に着目して―，土木学会第68回土木計画学研究発表会（秋大会），2023.11.25.

高木亮太朗・岡田智秀・栗本賢一・下造座悠太：東京ウォーターフロントにおける都市政策の空間分布に関する研究―（その１）東京臨海６区を対象とした政策実績報告書の実態把握―，令和５年度（第67回）日本大学理工学部学術講演会，2023.11.30.

下造座悠太・岡田智秀・栗本賢一・高木亮太朗：東京ウォーターフロントにおける都市政策の空間分布に関する研究―（その２）東京臨海６区を対象とした政策実績報告書の実態把握―，令和５年度（第67回）日本大学理工学部学術講演会，2023.11.30.

梅澤駿・岡田智秀・落合正行・岩壁奈緒：わが国の港湾における分区条例からみた立地許可施設の概観―国際戦略港湾と国際拠点港湾の全23港を通して―，令和５年度（第67回）日本大学理工学部学術講演会，2023.11.30.

金谷真帆・岡田智秀・田島洋輔・樋口伊吹・望月勝統：地方小都市におけるウォーターフロント開発を中心としたみなとまちづくりに関する研究 ―（その２）釧路フィッシャーマンズワーフの事業経緯に着目して―，令和５年度（第67回）日本大学理工学部学術講演会，2023.11.30.

藤澤綾香・阿部貴弘：伝統芸能の維持継承が地域に及ぼす効果に関する基礎的研究―長野県長野市の獅子舞を事例として―，令和５年度（第67回）日本大学理工学部学術講演会，2023.11.30.

須藤嵩晃・田村元二・白田直輝・阿部貴弘：複合書店の複合化の実態に関する研究―東京都23区の複合書店を事例として―，令和５年度（第67回）日本大学理工学部学術講演会，2023.11.30.

大塚晴希・田中賢：劇場の規模や運営・管理とバリアフリーの関係性ついての研究，令和５年度（第67回）日本大学理工学部学術講演会，2023.11.30.

戸塚夏萌・後藤浩：工場の緑地敷地を利用した遊水地の外水・内水氾濫 に対する効果（F２-９），令和５年度（第67回）日本大学理工学部学術講演会，2023.11.30.

結城陽平・平野歩夢・仲村成貴：高度経済成長期に整備された住宅地における指定外避難所に関する基礎的検討―我孫子市久寺家地区を対象として―，令和５年度（第67回）日本大学理工学部学術講演会，2023.11.30.

石坂哲宏・仲村成貴・井本佐保里・山中新太郎・安田陽一・長谷部寛・山口雪菜・中林諒：久寺家地区における避難行動の課題，令和５年度（第67回）日本大学理工学部学術講演会，2023.11.30.

稲垣理紗・仲村成貴・新井寿昭：杭基礎の損傷モニタリングに向けた基礎的検討―既製杭の曲げ載荷試験―，令和５年度（第67回）日本大学理工学部学術講演会，2023.11.30.

鈴木真悠・仲村成貴：応急対応に携わる地域建設業者の所在地で想定される最大震度に関する基礎的調査―熊本県内の地域建設業者を例として―，令和５年度（第67回）日本大学理工学部学術講演会，2023.11.30.

山上瑛理・佐々木舞緒・仲村成貴：道路橋データベースに基づく耐震補強および定期点検に関する基礎的調査―神奈川県および埼玉県の市町村が管理する道路橋を対象として―，令和５年度（第67回）日本大学理工学部学術講演会，2023.11.30.

加村拓也・佐々木舞緒・仲村成貴：横断道路橋の点検データ活用に関する検討―避難施設として指定されている公立小学校付近を対象として―，令和５年度（第67回）日本大学理工学部学術講演会，2023.11.30.

平野歩夢・結城陽平・仲村成貴：高度成長期に造成された住宅地における土地改変状況の調査―我孫子市周辺の測量データを用いて―，令和５年度（第67回）日本大学理工学部学術講演会，2023.11.30.

山地康介・押田佳子：登録観光地域づくり法人の自主財源確保方法及び使用用途に関する研究，令和５年度（第67回）日本大学理工学部学術講演会，2023.11.30.

佐々木拓磨・押田佳子：近代以降の江の島における観光の変遷に関する研究，令和５年度（第67回）日本大学理工学部学術講演会，2023.11.30.

真壁英司・西山孝樹・天野光一：リゾート地行動の能動性に関する基礎的研究―海洋リゾートにおける日本人とフランス人の過ごし方を比較して―，令和５年度（第67回）日本大学理工学部学術講演会，2023.11.30.

吉野聡汰・西山孝樹・天野光一：周辺地域が持つ津田沼パルコに対するイメージの基礎的研究―過去の新聞記事を対象として―，令和５年度（第67回）日本大学理工学部学術講演会，2023.11.30.

渡部柊・西山孝樹・天野光一：まちの中心と行政機能・市庁舎立地の関係性に関する研究―埼玉県39市の都市計画マスタープランを対象にして―，令和５年度（第67回）日本大学理工学部学術講演会，2023.11.30.

小川桃佳・落合正行・冨安亮輔・松島萌華：関東地方における地域分散型図書館の整備実態に関する研究，令和５年度（第67回）日本大学理工学部学術講演会，2023.11.30.

松島萌華・落合正行：長期存続する公民館の施設空間に関する研究―まちづくりに貢献する「優良公民館」を通して―，令和５年度（第67回）日本大学理工学部学術講演会，2023.11.30.

小見拓実・落合正行・石川秀才・島田龍之介：空き家の地域的活用におけるリスクマネジメント構築に関する研究―新潟県三条市の取り組みに着目して―，令和５年度（第67回）日本大学理工学部学術講演会，2023.11.30.

仁平和寿・牟田聡子・八藤後猛：わが国におけるエイジフレンドリーシティグローバルネットワーク参加市町村の現状と課題，令和５年度（第67回）日本大学理工学部学術講演会，2023.11.30.

吉川智貴・牟田聡子・八藤後猛：地域学校協働活動内容からみたまちづくりへの関係，令和５年度（第67回）日本大学理工学部学術講演会，2023.11.30.

石塚菜々子・小木曽裕：鎌倉の七里ガ浜分譲地における眺望と開発の実態から捉えたまちづくりの特性に関する研究，令和５年度（第67回）日本大学理工学部学術講演会，2023.11.30.

岡田美佳・沼田悠杜・山﨑晋：東京23区内の駅型保育施設と周辺公園の整備状況に関する研究―バリアフリー重点整備地区との関係性に着目して―，2023年度日本福祉のまちづくり学会関東甲信越支部若手研究者合同研究発表会，2023.12.9

小木曽裕：エクトール・ギマールによるアール・ヌーヴォーデザインのパリ・メトロの出入口に関する現代的評価に関する研究，2023年度日本造園学会関東支部大会，pp.79-80，2023.12.9

安田有希・押田佳子・照井進介・竹村太喜：コロナ禍における六義園の SNS 発信実態に関する研究，2023年度日本造園学会関東支部大会，2023.12.10.

小川田千夏・押田佳子：昭和戦後期以降の日比谷公園における評価の変遷に関する研究，2023年度日本造園学会関東支部大会，2023.12.10.

齊藤琉生・押田佳子：旭山動物園再生計画以降における展示の変遷が地域内外に及ぼす影響に関する研究，2023年度日本造園学会関東支部大会，2023.12.10.

村山七菜・押田佳子：東京都恩賜上野動物園における展示の変遷に関する研究，2023年度日本造園学会関東支部大会，2023.12.10.

池田那月・押田佳子：鳥取県北栄町「コナンのまちづくり」にみるアニメツーリズムの実態に関する研究，2023年度日本造園学会関東支部大会，2023.12.10.

保田皓生・押田佳子：我が国におけるご当地マラソン大会の現状に関する研究，2023年度日本造園学会関東支部大会，2023.12.10.

加藤颯人・押田佳子：防災教育副読本における被災体験談の活用実態に関する基礎的研究，2023年度日本造園学会関東支部大会，2023.12.10.

河野和輝・山﨑晋：大学キャンパスにおける敷地境界の設置形態に関する研究―東京都心部のキャンパスを対象として―，2023年度日本造園学会関東支部大会，2023.12.10.

森下源己・西山晃太・山﨑晋：新設・移転庁舎の広場空間計画に関する研究―政令指定都市・中核都市を対象として―，2023年度日本造園学会関東支部大会，2023.12.10.

吉川柊・池田優太・大平華月・熊坂野乃葉・佐々木詠介・田口奈緒子・山﨑晋：都市再生特別地区の区域外貢献に関する研究―東京都の事例を参考にして―，2023年度日本造園学会関東支部大会，2023.12.10.

下田恵里・山﨑晋：東京のしゃれた街並みづくり推進条例」におけるイベント活用に関する研究―公開空地の活用率に着目して―，2023年度日本造園学会関東支部大会，2023.12.10.

加藤凜太朗・山﨑晋：立地適正化計画における居住誘導区域内の交通実態に関する研究―中心公共交通と都心駅からの距離に―，2023年度日本造園学会関東支部大会，2023.12.10.

昼間駿一朗・赤松沙耶・芦名武尊・五十嵐弘大・小池凜・山﨑晋：屋内の公開空地における空間特性とイベント活用のあり方に関する研究―東京のしゃれた街並みづくり推進条例に着目して―，2023年度日本造園学会関東支部大会，2023.12.10.

岡田美佳・沼田悠杜・山﨑晋：駅型保育園における園外保育の移動環境と重点整備地区との関係性に関する研究―東京都内の事例を対象として―，2023年度日本造園学会関東支部大会，2023.12.10.

香取潤・山﨑晋：都市再生特別地区の環境貢献に関する研究―屋外空間の整備を中心として―，2023年度日本造園学会関東支部大会，2023.12.10.

瀧ちとせ・山﨑晋：お茶の水アートピクニックにおける道路空間及び公開空地の活用実態に関する研究，2023年度日本造園学会関東支部大会，2023.12.10.

石塚菜々子・小木曽裕：鎌倉の七里ガ浜分譲地における眺望と開発の実態から捉えた自治会主導のまちづくりの特徴に関する研究，2023年度日本造園学会関東支部大会，2023.12.10

植田奈津芽・小木曽裕：東京都世田谷区におけるコミュニティサイクル「がやリン」の導入目的と利用実態の整合性に関する研究，2023年度日本造園学会関東支部大会，2023.12.10.

中川恵・阿部貴弘：城下町の濠・掘割運河の 形成に関する考察―正保城絵図を題材として―，都市史学会大会，2023.12.16.

後藤佑綺・田島洋輔・小野寺亮太：バイオマス産業都市における木質バイオマス発電事業の導入実態に関する研究―事業概要と事業者間の連携状況に着目して―，自然環境復元学会第24回全国大会，2023.2.16.

後藤朋子・後藤理沙・後藤浩・後藤幹尚・藤森峻平・岩波光保・千々和伸浩・津野和宏：橋のメンテナンスの区民協働に向けて実施した新たな意識付け活動の考察，土木学会第 3 回インフラメンテナンス・シンポジウム，2024.2.29.

佐々木舞緒・仲村成貴：避難施設周辺に立地する道路橋の通行可否が災害時の避難経路に及ぼす影響，土木学会第 3 回インフラメンテナンス・シンポジウム，2024.2.29.

稲垣理紗・仲村成貴・新井寿昭：杭体の損傷モニタリングに向けた実験的検討―光ファイバーによるひずみ計測―，第51回土木学会関東支部技術研究発表会，2023.3.4.

平野歩夢・結城陽平・仲村成貴：高度経済成長期に造成された住宅地周辺の新旧地形図に基づく人工土地改変の概要把握，第51回土木学会関東支部技術研究発表会，2023.3.4.

結城陽平・平野歩夢・仲村成貴：高度経済成長期に整備された住宅地における水害時避難場所に関する検討―我孫子市久寺家地区を対象として―，第51回土木学会関東支部技術研究発表会，2023.3.4.

加村拓也・佐々木舞緒・仲村成貴：全国の地方自治体が管理する横断歩道橋の定期点検データ活用―災害時の避難経路や緊急輸送道路を考慮して―，第51回土木学会関東支部技術研究発表会，2023.3.5.

山上瑛理・佐々木舞緒・仲村成貴：市区町村が管理する道路橋における定期点検と耐震対策の進捗状況に関する調査―全国道路点検データを活用して―，第51回土木学会関東支部技術研究発表会，2023.3.5.

戸塚夏萌・後藤浩・前野賀彦：わが国のものづくりを支える中小工場が集積するまちの個性の変遷に関する一考察，第51回土木学会関東支部技術研究発表会，2024.3.5

秋元美咲・依田光正：歩行者系舗装材の印象に関する基礎的検討，第33回ライフサポート学会フロンティア講演会，2024.3.6-7.

落合はる菜・落合正行：観光地再生に向けた観光施設の整備実態に関する研究―「地域一体となった観光地・観光サービスの高付加価値化事業」を通して―，2023年度第94回日本建築学会関東支部研究発表会，2024.3.8.

Takaki Nishiyama: Irrigation Water and Engineers in Early Modern Japan -The Figure of Saizo Ōhata of the Kishū Clan in the Mid-Edo Period, Workshop on the Connections in Water History: France-Japan, Early Modern-Modern, Engineering-History, 2024.3.13-14.

ポスター発表（審査なし）

仲村成貴・新井寿昭：曲げ載荷を受ける既製コンクリート杭の振動モニタリング，第16回日本地震工学シンポジウム，2023.11.24.

有井菜々美・押田佳子：近代横浜における競馬場建設が地域に及ぼした影響に関する基礎的研究，令和 5 年度（第67回）日本大学理工学部学術講演会，2023.11.30.

畑中梨紗子・橋野佑生・湯澤泉実・小木曽裕：軽井沢別荘地景観が観光資源となっている要因に関する研究―別荘地の道路沿い樹木と道路幅員を視点として―，令和 5 年度（第67回）日本大学理工学部学術講演会，2023.11.30

橋野佑生・畑中梨紗子・湯澤泉実・小木曽裕：軽井沢別荘地景観が観光資源となっている要因に関する研究―別荘地の道路沿い樹木と道路幅員を視点として―，2023年度日本造園学会関東支部大会，2023.12.10.

湯澤泉実・橋野佑生・畑中梨紗子・小木曽裕：道路沿い樹木と道路幅員から見る軽井沢別荘地景観の特殊性について，令和 5 年度環境情報科学センター，2023.12.18.

研究業績につきましては日本学術会議協力学術研究団体の所属機関における論文および発表、理工学部及び工学部学術講演会での発表を掲載しております。ご了承ください。

令和５年度後期　“まち”行事・イベントカレンダー

10/7(土) 8(日) お茶の水アートピクニック

山﨑研究室の学生が、学生ボランティアスタッフとして準備から当日運営サポートをしました。

10/8(日) 第1回駿河台桜理祭、ホームカミングデー

場所：タワー・スコラ（桜理祭）、１号館（ホームカミングデー）
懇親会では各学科に教員が分かれ、訪れた卒業生との親睦を深めました。

10/21(土) 28(土) ２年生オリエンテーション（まちづくり現地見学会）

まちづくり工学科の教員が独自にプランを作成した「まち歩きコース」を、学生が希望のコースを選択して参加します。

Ａコース　阿部貴弘
五感で楽しむ秋の神楽坂まち歩き　徹底解説！神楽坂界隈の新旧まちづくりプロジェクト

Ｂコース　岡田智秀
東京ウォーターフロントの見方・楽しみ方

Ｃコース　後藤　浩
臨海副都心と東京港　「埋立地にできたまちの現状」と「海外からの輸入品の99.6%は港から日本へ入ってくる」を体感しましょう

Ｄコース　田中　賢
「江戸東京たてもの園」からまちなみを考える

Ｅコース　仲村成貴
小江戸川越まちあるき「名所＋α巡り」

Ｆコース　依田光正
世界標準のユニバーサルデザイン設備

Ｇコース　天野光一
東京の近代土木遺産を訪ねる

Ｉコース　髙村義晴
参道の魅力―中山法華経寺参道・柴又参道の二つの参道の比較―

Ｊコース　八藤後　猛
あなたの知らないディープなまち秋葉原の歴史と文化探訪　青果市場から電気街、そしてサブカルチャーの殿堂へ

Ｋコース　押田佳子
信仰と観光が共存する島・江の島を歩く

Ｌコース　西山孝樹
通り過ぎる場所から滞在する場所へ。変わりゆく日本の空の玄関口、成田空港周辺を巡る

Ｍコース　山﨑　晋
横浜みなとみらいエリア散策　横浜開港から今までのまちの変遷と都市計画手法を学ぶ

Ｎコース　落合正行
代官山から渋谷へ　都市の“奥”や“裏側”を巡りながら、建築家の思想を学ぼう

Ｏコース　田島洋輔
川面からのまち巡り―環境・防災の視点から江戸・東京を探索する―

Ｐコース　牟田聡子
やさしいまちってどんなまち　UD の視点で歩く世田谷区梅が丘

11/4 土 5 日 第９回桜理祭

場所：船橋キャンパス

11/5 日 船橋キャンパスウォッチング

場所：船橋キャンパス
学科別入試相談会に今年も大勢が来訪されました。

11/15 水 第11回サイエンスカフェ

場所：船橋キャンパス
「気候変動対応としてのフローティングアーキテクチャー（浮体式建築物）の可能性」
〇講演者　　菅原　遼先生（海洋建築工学科）
〇対談者　　田島洋輔先生（まちづくり工学科）
くつろいだ雰囲気のもとで教職員と学生が語り合い、相互理解を深めました。

11/30 木 令和５年度（第67回）理工学部学術講演会［完全対面実施］

今年も恒例の学術講演会が開催されました。まちづくり工学科からは、以下の学生が優秀発表賞を受賞しました。

氏名	研究室名	発表題目
山地康介	押田	登録観光地域づくり法人の自主財源確保方法及び使用用途に関する研究
松島萌華	落合	長期存続する公民館の施設空間に関する研究―まちづくりに貢献する「優良公民館」を通して―
渡部　柊	西山・天野	まちの中心と行政機能・市庁舎立地の関係性に関する研究―埼玉県39市の都市計画マスタープランを対象にして―

12/2 土 まちづくり工学専攻博士前期課程第２回修士論文中間審査会

場所：タワー・スコラ　S402教室
博士前期課程２年９人が発表しました。

12/16 土 日本大学習志野高等学校ＣＳＴコース　研究成果発表会

場所：日本大学習志野高等学校

12/18 月 日本大学習志野高等学校ＣＳＴコース２年生　駿河台校舎見学

場所：タワー・スコラ　13階製図室他
まちづくり工学科の特色や学びについて説明しました。あわせてお茶の水界隈のまち歩きをして、まちを観察する視点などについて学びました。

11/6 月 - 1/22 月 令和５年度企業セミナー

学部３年生、修士１年生を主とした全学年を対象として、全面対面式で今年も下記企業に参加いただきました。

〈総合建設業〉　佐藤工業／大林組／竹中工務店／大成建設／熊谷組／フジタ／長谷工コーポレーション／戸田建設
〈建設コンサルタント・建築設計〉　オオバ／日本工営／国土技術研究センター／パシフィックコンサルタンツ／中央コンサルタンツ／オリエンタルコンサルタンツ／リテックエンジニアリング／UR リンケージ／ホクト・エンジニアリング／ JR 東日本建築設計／建設技術研究所／日本振興国際航業／日建設計／パスコ／三井共同建設コンサルタント／オリジナル設計／八千代エンジニヤリング／日本工営都市空間／福山コンサルタント／千代田コンサルタント
〈不動産業〉　鹿島建物／総合管理／テンワス／清水総合開発／横浜市住宅供給公社／公共用地補償機構／大成有楽不動産／長谷工不動産／大京／東電不動産／中日本エクシス／都市再生機構（UR）
〈運輸〉　東日本旅客鉄道（JR 東日本）／埼玉高速鉄道／東海旅客鉄道（JR 東海）／中日本高速道路（NEXCO 中日本）／東京地下鉄（東京メトロ）
〈住宅・製造業・建築設備・エネルギー・造園業・福祉サービス〉
アビリティーズ・ケアネット／三協フロンテア／西武造園／ヨシモトポール／日設／大和リース／野村プロパティーズ／東電タウンプランニング／日軽エンジニアリング／大和ハウス工業

2/19 月　卒業研究審査会

４つのユニットに分かれ、１年間取り組んできた卒業研究の審査会が実施されました。それぞれのユニットにおいて、先生方からの質問に的確に答えなければいけません。１年間の研究を通して得た知見をもとに、みなさんはそれらに一生懸命応えようとする姿がうかがわれました。

2/22 木　修士論文最終審査会

氏名	発表題目
梅澤 駿	わが国の臨港地区における分区制度の運用方策に関する研究 ―国際戦略港湾および国際拠点港湾の全23港に立地する一般開放施設を通して―
佐々木 舞緒	避難施設周辺に立地する道路橋の通行可否が災害時の避難経路に及ぼす影響 ―全国道路施設点検データベースを活用して―
藤山 遼太	津波避難施設「命山」の土地利用規制と造成時の留意点に関する研究 ―静岡県に現存する全21基を対象として―
中尾 太一	米国ワシントン州における日系人に関わる歴史的環境保全に関する研究 ―価値評価の観点及び評価軸に着目して―
西山 晃太	百貨店撤退後の建物・跡地利活用に関する研究 ―中心市街地活性化基本計画認定後の事例を対象として―
野中 優希	空家等対策の推進に関する特別措置法による代執行対象地の立地状況及び跡地利活用に関する研究 ―令和３年度真での代執行事例を対象にして―
柳沼 雄波	ブラフ積擁壁の実態と歴史・文化的価値に関する一考察
山地 康介	登録観光地域づくり法人の運用における現状と課題に関する研究
須藤 嵩晃	複合書店の実態と複合化の効果に関する研究 ―東京都23区の複合書店を事例として―

3/12 火　卒業発表・修了発表

学部卒業者　112名　（2023年９月卒業４名含む）
大学院博士前期課程修了者　９名
卒業式と学位記伝達式は、３月25日（月）に日本武道館（卒業式）ならびに駿河台キャンパス（学位記伝達式）で行われます。

令和５年度　まちづくり工学科各賞受賞者

優等賞
- **稲垣理紗（仲村研究室）**
- **大塚晴希（田中研究室）**
- **山上瑛理（仲村研究室）**

桜工賞
- **大塚晴希（田中研究室）**
- **島田龍之介（落合研究室）**
- **常松美咲（岡田・田島研究室）**

理工学部校友会まちづくり部会特別賞
- **有井菜々美（押田研究室）**
- **落合はる菜（落合研究室）**
- **松島萌華（落合研究室）**
- **渡部　柊（西山・天野研究室）**

最優秀賞（大学院）
- **藤山遼太（岡田・田島研究室）**：津波避難施設「命山」の土地利用規制と造成時の留意点に関する研究―静岡県に現存する全21基を対象として―

最優秀賞（学部）
- **植田奈津芽（小木曽研究室）**：東京都世田谷区におけるコミュニティサイクル「がやリン」の利用実態から地域の移動需要を満たす在り方に関する研究

優秀賞
- **稲垣理紗（仲村研究室）**：杭体の損傷モニタリングに向けた実験的検討―光ファイバーによるひずみ計測―
- **大塚晴希（田中研究室）**：劇場・博物館・美術館のバリアフリーと芸術鑑賞の多様性についての研究
- **小川桃佳（落合研究室）**：近畿地方における地域分散型図書館の整備実態に関する研究
- **金谷真帆（岡田・田島研究室）**：地方都市におけるウォーターフロント開発を中心としたみなとまちづくりに関する研究―釧路フィッシャーマンズワーフの事業経緯に着目して―
- **清水大介（岡田・田島研究室）**：静岡県駿河湾地域における津波避難施設「命山」の整備実態に関する研究―「命山」の土地利用規制と造成時の課題に着目して―
- **下造座悠太・髙木亮太朗（岡田・田島研究室）**：東京ウォーターフロントにおける都市政策の実現性評価および地理的特性に関する研究―東京臨海６区を対象とした政策実績報告書の実態把握―
- **常松美咲（岡田・田島研究室）**：わが国における海釣り施設の事業継続要件に関する研究―長期運営される海釣り施設の立地特性に着目して―
- **藤澤綾香（阿部研究室）**：伝統芸能の維持継承が地域コミュニティに及ぼす効果に関する基礎的研究―長野県長野市の獅子舞を対象として―

桜まち賞
- **小川穂高（阿部研究室）**：地方観光地における旅館の維持に向けた取組みに関する基礎的研究―養老渓谷を対象として―
- **加村拓也（仲村研究室）**：全国の地方自治体が管理する横断歩道橋の定期点検データ活用―災害時の避難経路や緊急輸送道路を考慮して―
- **小見拓実（落合研究室）**：地方都市における空き家の地域的活用のリスクに関する考察―新潟県三条市８事例の所有・借用形態に着目して―
- **島村拓人（後藤研究室）**：東京都沿岸の外郭防潮堤外にある集合住宅の高潮被災の可能性と減災法の提案
- **下田恵里（山﨑研究室）**：「東京のしゃれた街並みづくり推進条例」におけるイベント活用に関する研究―公開空地の活用率とイベント運用実態に着目して―
- **田村元二（阿部研究室）**：「鉄道駅の開業と駅周辺の市街化の特徴に関する研究―京王電鉄と小田急電鉄を対象として―」
- **平野歩夢（仲村研究室）**：高度経済成長期に造成された住宅地周辺の新旧地形図に基づく人工土地改変の概要把握
- **松島萌華（落合研究室）**：長期存続する公民館の施設空間に関する研究―まちづくりに貢献する「優良公民館」を通して―
- **山上瑛理（仲村研究室）**：市区町村が管理する道路橋における定期点検と耐震対策の進捗状況に関する調査―全国道路点検データを活用して―

教職員・学生の活躍　令和５年10月１日～令和６年２月29日

学会・協会等の受賞、テレビ放映や新聞・雑誌に掲載された記事、書籍の出版など、本学科の教職員・学生の活躍を紹介します。

［受賞］

■ ４年 平野歩夢

第47回全日本選手権大会　初段以上楯小太刀３位

主　　催：日本スポーツチャンバラ協会、国際スポーツチャンバラ協会
開催年月日：2022年９月４日

第14回秋季関東学生大会　有段小太刀優勝、有段楯長剣２位

主　　催：日本スポーツチャンバラ学生連盟
開催年月日：2023年10月４－５日

■ ４年 萩原菜々華

2023年度日本建築学会大会（近畿）学術講演会　建築計画部門「若手優秀発表賞」

対　　象：避難訓練コンサートの比較研究
受賞年月日：2023年11月６日

■ ３年 後藤佑綺

自然環境復元学会第24回全国大会「若手優秀発表賞」

対　　象：バイオマス産業都市における木質バイオマス発電事業の導入実態に関する研究―事業概要と事業者間の連携状況に着目して―
受賞年月日：2024年２月16日

■ 博士前期課程１年 鈴木彩加・安田有希

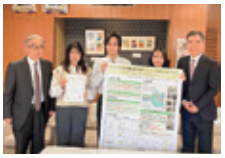
日本建築学会関東支部第24回提案競技「美しくまちをつくる、むらををつくる～まちなか再生による取り組む伊勢崎市の未来を創造する」「佳作」

対　　象：サブスクで紡ぐ“絆×まち”
受賞年月日：2023年12月10日

■ ３年 橋野佑生・畑中梨紗子・湯澤泉実・特任教授 小木曽　裕

2023年度日本造園学会関東支部大会「奨励賞（ポスター発表部門）」

対　　象：軽井沢別荘地景観が観光資源となっている要因に関する研究―別荘地の道路沿い樹木と道路幅員を視点として―
受賞年月日：2023年12月10日



左：軽井沢町への7年の研究協力のお礼と賞・研究報告（2月13日）　右：土屋町長への報告

［書籍］

■ 特任教授 八藤後　猛

書籍名：『公衆衛生学』第２章 公衆衛生学の基礎知識，６住環境のとらえ方（メジカルビュー社）

発行年月日：2023年12月28日

■ 助教 落合正行

書籍名：『第４版 コンパクト建築設計資料集成』複合：複合の種類と効果（丸善出版）

発行年月日：2024年１月30日

［雑誌等に掲載］

■ 教授 岡田智秀

記事名：地方都市における持続可能なウォーターフロントのまちづくり

掲　載　誌：『ウォーターフロント開発』第41号（ウォーターフロント協会）
発行年月日：2024年１月10日

■ 助教 落合正行

作品名：「ワカミヤハイツ」

掲　載　誌：『第４版 コンパクト建築設計資料集成』（丸善出版）
発行年月日：2024年１月30日

■ 特任教授 天野光一

記事名：巻頭言「土木遺産と民藝―技術者の教養としての土木遺産」

掲　載　誌：『月刊基礎工』１月号（総合土木研究所）
発行年月日：2023年12月28日

［新聞］

■ 教授 仲村成貴

記事名：先生教えて！ -85- 地震防災　日常生活に災害対策を取り入れる工夫を（取材記事）

掲　載　紙：日本大学新聞
発行年月日：2023年９月20日

■ 教授 岡田智秀

記事名：歩きたくなる街へ実証　初の「まちなか文化祭」市原・五井（インタビュー）

掲　載　紙：千葉日報
発行年月日：2023年11月21日

［講演等］

■ 教授 阿部貴弘

栃木県景観講演会「歴史まちづくりのススメ」

主　　催：栃木県
開催年月日：2023年10月31日

富士山世界文化遺産登録10周年記念富士山世界遺産サミット「世界遺産を活かした持続可能なまちづくり」（コーディネーター）

主　　催：富士宮市
開催年月日：2023年11月13日

公共施設デザインスキルアップ研修「なぜ、景観に取組むのか？ ～景観重要公共施設制度の活用に向けて～」

主　　催：木更津市
開催年月日：2023年11月17日

景観研修「なぜ、景観に取組むのか？」

主　　催：富里市
開催年月日：2024年１月30日

■ 教授 岡田智秀

鹿沼市立南摩中学校総合的な学習の時間（地域景観学習）「南摩の景観まちづくり（第２回）～まち歩きによる学びとは～」

主　　催：鹿沼市
開催年月日：2023年10月18日

日本大学鶴ケ丘高校模擬講義「まちづくり工学の学びの意義と魅力」

主　　催：日本大学鶴ケ丘高校
開催年月日：2023年10月25日

職員研修会・みなとまちづくり担当者実務コース「国内外のウォーターフロント開発の動向と今後の方向性」

主　　催：国交省国土総合技術研究所
開催年月日：2023年10月26日

あらかわ景観まちづくり塾：最終成果発表会

主　　催：荒川区
開催年月日：2023年12月16日

鹿沼市立南摩中学校総合的な学習の時間（地域景観学習）「南摩の景観まちづくり（第３回）～南摩地区の景観マップと表現方法～」

主　　催：鹿沼市
開催年月日：2024年１月17日

富士山世界文化遺産に係る三保海岸の景観保全と防災対策の進捗状況 Season.3

主　　催：日本大学静岡工科会
開催年月日：2024年１月20日

北戸田駅周辺部ウォーカブル空間形成ワークショップ

主　　催：戸田市
開催年月日：2024年2月3日

三保松原の景観改善10周年記念シンポジウム「海岸景観とまちづくり」

主　　催：静岡県
開催年月日：2024年2月24日

■ 教授 田中　賢

公開研究会「遊ぶ・学ぶ・楽しむ・癒やすためのインクルーシブデザインを考える　～インクルーシブプレイス コパルの計画プロセスから学ぶ～」（まとめ）

主　　催：日本建築学会
開催年月日：2023年９月４日

公開研究会「遊ぶ・学ぶ・楽しむ・癒やすためのインクルーシブデザインを考える　～ユニバーサル・ミュージアムの建築空間を考える～」（まとめ）

主　　催：日本建築学会
開催年月日：2023年11月３日

■ 准教授 押田佳子

シンポジウム「地域と共に歩む史跡神明貝塚」みどりと共生する史跡と観光まちづくり

主　　催：春日部市教育委員会
開催年月日：2023年11月５日

■ 助教 田島洋輔

自然環境復元学会・日本ビオトープ協会合同シンポジウム「都市で創るいきものあふれる世界　―今、私たちが目指すもの―」都市域における既存グレーインフラの環境復元に向けた市民参画の取り組み（講演者・パネリスト）

主　　催：自然環境復元学会・日本ビオトープ協会
開催年月日：2024年２月16日

［テレビ出演］

■ ３年 石井麻翔

テレビ愛知「フットゴルフジャーニー2024 ～ PLUS ULTRA ！～」

放　映　日：2024年１月27日

［テレビ出演（コメント）］

■ 教授 阿部貴弘

NHK 静岡「登録から10年　富士山世界遺産サミット」

放　映　日：2023年11月13日

編集後記

前号（No.21）から新たに編集員となりました八藤後です。前号の特集、学科創設までの経緯についてと、社会の変化に大学がどのように対応したのか、という座談会記事は興味深かったと思います。今号は卒業生に視点をあてて、多様な分野で専門性や興味を生かして活躍している様子がうかがえます。すばらしいですね。大学院生も後期課程修了者（博士）を出すまでに到り、学科はもう新設とは言えない立派な大人になったことをあらためて感じました。学科創立二十周年、その時ここの人たちは社会の中堅としてどのような活躍をしてくれるのか。今から楽しみです。

（八藤後）